

□議員名：藤岡 修美

1 文化振興ビジョンの取り組みについて

論点	山陽小野田市文化振興ビジョンは作成から6年8カ月経ったが、文化芸術の振興の取組状況について聞く。
回答	平成33年度まで文化振興ビジョンを続けていき、活力と笑顔あふれるスマイルシティ山陽小野田の実現に向けた施策ということから、本市の地域資源であるガラス文化の推進とかるた競技の振興に積極的に取り組む。

論点	山陽小野田市文化振興ビジョンは作成された後、執行部の体制が変わったが、中身については変わらないか。
回答	文化振興ビジョンは、文化振興に対する理念というのが主な内容であり、第1次、第2次総合計画との整合性もよくとれているので、当面これを引き継ぐことを考えている。

論点	市制10周年記念で市民によるベートーベンの第九の合唱のコンサートが行われたが、市制15周年での企画はいかがか。
回答	市制15周年については、取り組みはしないという方向だが、市長も変わり、第2次総合計画の中で、市制15周年の冠をつけてもいい事業があれば、検討していきたい。

論点	団体や個人による文化活動のイベント情報が市民に届いていないと思うが、情報発信の仕方について、どう考えるか。
回答	イベントの情報発信ができていないと思われることについては遺憾に思っているが、市広報の文化ナビという項目で、イベントや諸行事について、啓発をしている。今後はフェイスブック等を通じての啓発を考えている。

論点	市の文化財はシビックプライドと結びつくものだが、文化財の保護継承とその活用について、どのような取り組みをしてきたのか。
回答	文化財を保護、継承し、活用していくことは、行政の重要な役割の1つ

	と考えており、指定文化財の維持管理や整備、未指定文化財の調査、指定、未指定文化財の公開、活用などの事業に取り組んでいる。
--	--

論点	ふるさと文化遺産はシビックプライドやシティセールスに結びつくと考える。市民に行き届いていないことについてどう思うか。
回答	竜王山、寝太郎、小野田セメントと笠井家、高泊開作と4つのストーリーに基づいたものがふるさと文化遺産として完成している。これをしっかり市民に見ていただき、文化遺産を守っていこうという意識に結びついていくように活用と普及を図っていきたい。

論点	高泊開作は平成29年に山陽小野田市ふるさと文化遺産に登録されているが、浜五挺唐樋と勘場屋敷の管理状況について聞く。
回答	浜五挺唐樋は国指定文化財なので、国の補助金を活用して、修繕していきたい。勘場屋敷については、市指定史跡とすることについて現在、文化財審議会へ諮っており、今後の対応については答申を受けて検討する。

論点	文化によるまちづくり推進委員会を立ち上げているが、その目的と活動状況について聞く。
回答	市民の意見を広く反映させるためにまちづくり推進委員会を設置しており、年に一、二回程度開催する中で、本市における文化芸術の振興及び文化によるまちづくりの推進に関し、意見を求め、今後のまちづくりに役立てようとしている。

## 2 市民の健康づくりの推進について

論点	がんは検診で早期発見することが重要であると言われていたが、本市のがん検診の取り組みについて聞く。
回答	本市で行っているがん検診は、胃がん、肺がん、大腸がん、前立腺がん、子宮がん、乳がんで、受診率向上のために市広報ホームページ、ポスター、あるいはFMサンサンきらら等、あらゆるメディアを活用し、周知及び受診勧奨等を行っている。

論点	本市のがん検診受診率は県内で低い位置にあるが、その対策についてはいかがか。
回答	がん検診の受診率が低いということで、総合計画には国が定めている50%よりも低い、13%という目標数値を掲げている。当面はこの13%をクリアすべき施策の展開をしていくように内部で協議をしている。

論点	尾道市は膵臓がんの早期発見の取り組みを始め、成功しているが、本市も尾道方式による膵臓がんの早期発見に取り組めないか。
回答	尾道方式では中核病院が中心となり、医師同士の連携を取っているが、本市では受け皿としての検査機器のある病院の受け入れ状況や医師同士の病診連携が課題と考えられ、同じ方法で市が中心となって導入していくことは難しい。

論点	尾道市の場合膵臓がん患者の5年生存率が20%まで改善しているが、この取組についてどう考えるか。
回答	そのまま本市で利用することはできないと思うが、ハイリスクの患者を抽出して、どういう基準で次の段階に進めていこうということをやれば、膵臓がんの検診率のアップにつなげることはできると思う。